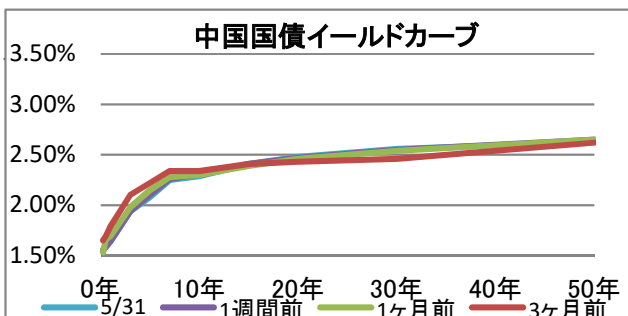
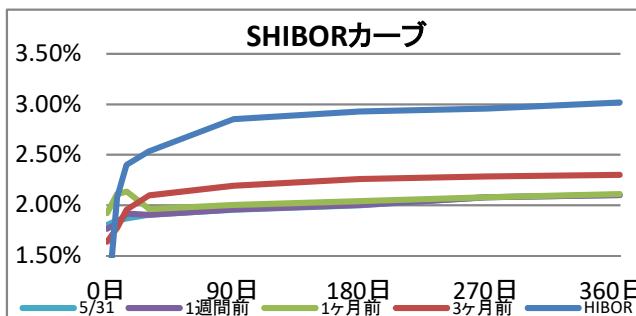


基準レート		2024/5/31	(前週末比)
人民元基準値	USD/CNY	7.1088	-0.0014
	JPY/CNY	4.5611	-0.0004
SHIBOR	3M	1.9550%	-0.0030%
国債利回り	10年	2.29%	-0.02%
上海総合指数		3,086.81	-2.06



(1) 概況

国際金融市場では、堅調な経済指標等から早期利下げ期待が後退する中で債券利回りの上昇と株式市場の下落が続いていたものの、週後半に米PCE物価指数を含む経済指標の伸び悩みを確認すると買戻しが入り、債券利回りは上昇幅を、株式市場は下落幅を縮小する展開。外為市場は動意なく、小幅な値動きに終始。

中国金融市場は、株式市場では政府の不動産支援策への期待が後退する中、半導体向け国策ファンド設立やIMFの成長予想引き上げ等が支援材料となっていたものの、統計局PMI悪化を確認すると3,100の大口を割り込み、債券市場でも中国人民銀行が利回り低下への懸念から国債売オペを示唆したものの、利回り低下が続くリスクオフの展開。外為市場は7.24台で小動き。

中国では、習主席が、北京開催の「中国・アラブ諸国協力フォーラム」の演説で、アラブ諸国によるパンダ債発行やアラブ金融機関のクロスボーダー人民元決済システムへの参加、中銀デジタル通貨分野等での協力強化等に言及し、中央政治局会議では「金融リスク防止・解消に対する問責規定（試行）」等を審議。李強総理は、日中韓首脳会談にて、FTA交渉の早期再開を含む経済貿易や科学技術分野での連携強化、気候変動対応等を提案し、日中韓ビジネス・サミットでは、三ヶ国の経済優位性の相互補完等を進める必要性を強調。国務院は、「省エネ・脱炭素行動計画」で本年の削減目標等を示し、国家金融監督管理総局は、バーゼル銀行監督委員会議長との会談で、中国金融部門の改革と金融安定、金融監督に関する国際協力等について、IMF第一専務副理事との会談で、国際金融規制や中小金融機関のリスク予防・管理、IMF4条協議と金融セクター評価プログラム等について意見交換を実施。中国人民銀行は安全資産需要への対応の観点から国債売オペを実施する方針を一部メディアに示し、中国政府系半導体ファンドの設立も報道されている。この間、不動産関連では、上海、広州、深圳等が住宅購入規制の緩和を実施し、証監会が不動産大手・恒大地産集団に対して、債券の不正発行や財務報告への虚偽記載等から41億7,500万元（約920億円）の罰金を科したと公表。

(2) 金融市場調節

中国人民銀行は、リバースオペ期日100億元に対して、リバースオペ6,140億元を実施し、6,040億元を供給。

(3) 主な経済指標

- ・工業企業利益（1～4月）は、前年比+4.3%（1～3月、同+4.3%）と横ばい。電力・熱力等の伸びが低下したが、製造業の伸びが改善。なお、4月単月では、前年比+4.0%（3月、同-3.5%）とプラスに転化。
- ・国家統計局PMI（5月）は、製造業が49.5%（4月、50.4%）と分岐点を下回り、2か月連続で低下。サブ指数では、雇用の低調が続く中、新規受注と生産の低下が全体を押し下げた。非製造業は51.1%（4月、51.2%）と、サービス業は若干改善したが建築業の低下を主因に2か月連続で低下。この結果、総合も51.0%（4月、51.7%）と2か月連続で低下した。

② 資金市場

(1) 人民元資金市場

	SHIBOR	無担保資金	レポ	NCD AAA
ON	1.8050%	1.8050%	2.2000%	
1W	1.8510%	2.1000%	1.8000%	1.6500%
2W	1.8680%	1.9500%	1.9000%	1.7500%
1M	1.9070%	2.7000%	1.9000%	1.9000%
3M	1.9550%	2.0000%	2.0000%	1.9000%
6M	1.9990%	2.1800%		1.9700%
9M	2.0800%	2.7000%		2.0700%
12M	2.0990%	3.2000%		2.0800%

月末となる週ながら、中国人民銀行が積極的に資金を供給していることもあって、市場の安定は保たれており、四半期末の6月末がやや意識されているものの、ターム物の調達ニーズは限定的となっている。

NCD市場では、積極的な発行が続いているものの、金利水準は四半期末の6月末越えとなる1カ月が上昇しているものの、それ以外の期間では方向感なく概ね横ばいでの推移となった。ターム物金利は、1カ月は1.9%前後に上昇しているものの、3カ月は1.9%前後、6カ月は1.9%台後半、1年は2.1%前後での取引が続いた。

(2) 米ドル資金（本土内）

	BID	OFFER
ON	5.52%	5.55%
1W	5.60%	5.65%
1M	5.65%	5.70%
3M	5.70%	5.75%
6M	5.75%	5.85%
12M	5.85%	5.95%

中国国内市場では、足元のドル資金需給に不足感がないことから、利下げ時期を見極める余裕ある状況となっており、ターム物の出合いは限定的で、その金利水準は、1カ月が5.65%前後、3カ月が5.7%前後で出合いが続いている。

③人民元債券市場

	国債	地方債AAA	金融債AAA	社債AAA	社債AA
3M	1.54%		1.86%	1.98%	2.13%
6M	1.61%		1.92%	2.02%	2.18%
1Y	1.64%	1.75%	2.06%	2.08%	2.23%
3Y	1.94%	2.06%	2.13%	2.24%	2.40%
5Y	2.08%	2.25%	2.30%	2.38%	2.55%
10Y	2.29%	2.50%	2.53%	2.64%	3.05%

米国債券市場は、入札や週末のPCEを控えて神経質な展開となり、週前半は強めの経済指標等から警戒感が高まり利回りの上昇が続いたものの、週後半に経済指標やPCE物価指数の伸び悩みを確認すると、過度な警戒が後退する格好で利回りは上昇幅を縮小。中国債券市場では、政府の住宅市場支援策が景気先行き懸念を払拭する状況となっておらず、月末週ながら資金需給が安定していることもあり、利回り低下余地の残る中長期の信用債を中心とする買いしっかりの展開が続いている。この結果、10年米国国債利回りは4.50%（前週末比+4bp）へ上昇を続け、10年中国国債利回りは2.29%（同-2bp）と低下に転じており、利回り差は221bp（同+6bp）と前週に続き小幅ながら拡大している。

中国債券のイールドカーブは、歴史的な低水準（債券価格は高値）にあって景気回復への期待が高まらないことから、低下余地の残る信用債の中長期ゾーンを中心に利回りの低下が続いており、フラットニングとクレジットスプレッドの縮小傾向が続いている。

④先物為替市場

	USD / CNY
1 M	-229.0 / -228.0
3M	-705.0 / -702.0
6M	-1,442.0 / -1,440.0
9M	-2,180.0 / -2,175.0
12M	-2,910.0 / -2,907.0

対ドル基準レートは7.1088と前週末比-14pipsのドル安元高、対円基準レートも4.5611と同-4pipsの円安元高と、対ドルで大幅な元高水準での設定が続いている。中国国内市場では、欧米市場でドル高となる中、月末のドル需要の高まりもあって、当面の節目とみられる7.25が目前に迫る展開となり、7.24台半ばを中心とする小幅な値動きに終始し、ほぼ前週末と同じ水準で週末を迎えている。

先物は、人民元安と米中の金利差拡大への懸念はあるものの、依然として不透明感が強いことから、値動きは限定的となっており、1年物は-2900前後での取引に終始。

⑤金利スワップ

	Quarterly 7d Repo A/365	Quarterly 3M SHIBOR A/365 A/360	Annually O-N SHIBOR A/365 A/360
3M	1.85%		1.70%
6M	1.85%	1.93%	1.65%
9M	1.85%	1.97%	1.70%
1Y	1.85%	1.96%	1.70%
3Y	1.91%	2.03%	1.75%
5Y	2.06%	2.19%	
7Y	2.14%	2.29%	
10Y	2.22%	2.38%	

金利スワップ市場では、債券利回りが中長期を中心に低下を続けたから、スワップ金利もカーブ全体に下方シフトが続き、債券利回りとの差であるスワップスプレッドも縮小が続いている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよく読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入